

会務検討特別委員会から答申ができました

会務検討特別委員会（中川杉生委員長）には選挙規則、若手同窓との連携推進事業、名誉会員について、評議員会のあり方など幅広い課題について会則に至るまで検討をお願いしていますが、このたび8月20日(月)に答申書が矢崎会長に提出されました。5月からの短い期間ですが、5回の委員会審議とメール等での意見交換などハードスケジュールの中まとめていただきました。誠にありがとうございました。選挙規則では、東京歯科大学同窓会選挙規則（案）を提示していただきました。基本原則として、今までの会則で大きな混乱がなかったことから従来やり方を選挙規則で成文化し、規則策定にあたっては公平性透明性を確保しながらよき伝統を守るという基本原則に則ったものであります。執行部ではこの選挙規則案を尊重し、秋の評議員会（11月3日）で協議題としてご披露しご意見をいただく予定にしております。

北海道地域支部連合会総会・支部長会

8月18日(土)札幌にて支部長会、総会が開催されました。支部長会では、本部から、寄付のお願い、一県一評議員の経過措置について、そして今年の評議員会で提案する若手推進事業に対する意見、情報ネット拡大のお願いをいたしました。今回の同窓会機構改革で評議員の数は支部単位から地域支部連合会員数に応じて決まることになり、北海道地域支部連合は10名の評議員が3名になります。いままでは意見交換の場としての役割を主に評議員会が担ってきましたが、機構改革によって評議員会以外にも、情報ネットでの情報交換、地域支部連合会長の本部役員への参加、そして地域支部連合会開催の支部長会に役員が参加するなど道はいくつかに増やされ、また広がってまいりました。その北海道地域支部連合での支部長会では、今秋の評議員会には出席されない先生もふくめた9名の支部長（札幌：中野一博支部長、函館：額賀康之支部長、小樽：坂田道昭支部長、旭川：市川徹支部長、室蘭：古谷忠雄支部長、苫小牧：伊尾明子支部長、十勝：梅安秀樹支部長、北見：伊藤正通支部長、空知：原岡研二支部長）から貴重なご意見をいただきました。質問に対しては矢崎会長が丁寧にお答えするなど、大変有意義な意見交換の時間を持つことができました。特に若手が少なくなり高齢化傾向をしめす北海道地域の現状、若手同窓との連携推進へのご助言、本部学術事業への要望などの多くのご意見をいただき今後の会務運営に大いに役に立つこととなります。また一県一評議員の経過措置に対して、本案を評議員会で強く提案してきました麻生博前札幌支部長からもその基本部分を伺うことができました。総会においては、途中写真撮影を挟み1時間半を超える長丁場、そして翌日には、梅村副会長により渉外関係の意見交換が支部長の先生方と行われるなど、まさに暑い熱い北海道の二日間でありました。佐藤英俊連合会会長の熱意に深く敬意を表する次第です。

次年度に向かって固まりつつある若手同窓との連携推進

若手ネットワーク委員会をはじめ企画会議の各委員会では、次年度に向かっての若手同窓との連携推進事業を着々と計画しておりますが、これらの案を、制度上、あるいは会則面で整合性を取る必要があります。8月25日（土）開催の第4回理事会においてはそのための最終段階の審議がなされました。“卒後5年までの同窓のための新進会員制度”、“母校在生や他校出身の母校大学院生・臨床研修歯科医等への準会員制の導入”、“卒後5年間（新進会員期間中）会費未納ゼロをめざす5年間会費一括納入とそれを進めるための入会金および新進会員諸会費の減額計画”、“臨床見学など地域で若手同窓を応援してもらうための支部での若手ネットワーク窓口の設置”、“これら重点事業推進のための財源の確保”などが提案、協議され、了承されました。これらの諸策を進めるためには、もちろん母校からの協力は不可欠ですし、さらに実施上の不都合な点など一つ一つ解決してゆく必要があります。まずは確実に平成25年にむかって実施可能なものから始めることとし、この秋（11月3日）の評議員会にむかって準備を進めてゆきます。是非ご期待ください。

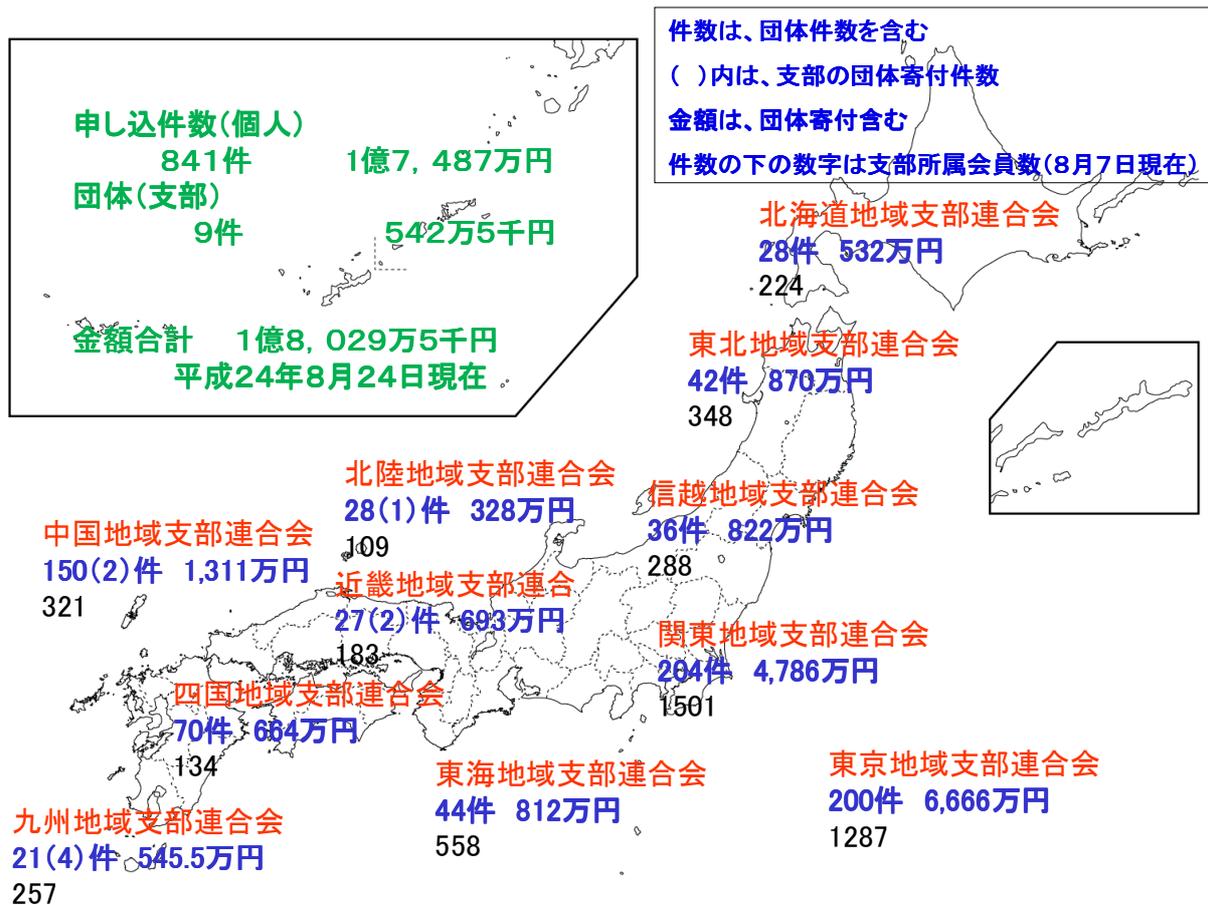
同窓会創立120周年記念事業

西暦1895年、明治28年6月16日。高山歯科医学院で第一回の卒業証書の授与式があり、卒業式後正午から「高輪萬清楼」で第一回院友会が開かれ、東京歯科大学同窓会がスタートしました。それから110余年を超える歳月が流れましたが、今から3年後にあたる2015年は同窓会創立120周年となります。理事会では120周年記念事業を行うことを確認し、次の評議員会で提案することにしました。さて、「高輪萬清楼」とありますが、芝支部の近藤保先生によれば、寛永時代から大正9年まで営業しており、中華だけでなく日本料理等も出していたそうで、泉岳寺の近く古くは「萬」＝よろずやとも言っていたそうです。第一回院友会がどんなようであったか興味を引くところであります。

寄付のお願い

8月24日現在**1億8,029万5千円**です。個人協力は**841人**となりました。少しずつは増えておりますが、目標の5億円までは更なるご協力が必要となります。地域支部連合会ごとに協力件数と金額を記しました。下の小さい数字は会員数です。できれば会員の50%を超える協力をお願いしたと思っています。

執行部では大学との連携を強く持とうとしています。これは単に同窓会と大学との組織との連携のみならず、全国同窓と大学、すなわち高山歯科医学院から培われた歴史、血脈イズムで代表される東京歯科の文化と伝統から生まれる心の部分、そして卒業生から現在の在生まで含めた家族的な絆であり、そのための象徴として新血脈記念ホールそして同窓からの協力が重要なのです。是非ご協力のほどお願いいたします。



同窓会報にご注目

まもなく同窓会報8月号が届きます(少し遅れてすいません・9月4日発送見込み)。

ますます内容充実、新しい企画も続々登場します。カラーページとなった表紙をよくみますと、輪の中に写真が写っています。委員会ではどの写真を使うかいつも頭をひねっています。今回はどんな写真でしょうか、ご注目ください。評議員会でも同窓会報の表紙に関するご意見もうかがいました。表紙も強い意見を主張します。東京歯科ならではの表紙、アイデア募集中です。内容ですが、会員往来という新企画もあります。同窓会はやはり会員、個人個人を大切にしてください。同窓を全員紹介するのは難しいですので、まずは歯科以外で頑張っている同窓に注目してみました。東京歯科出身の有名人、この人こんなことをやっているのかというのもオーケーです。ご紹介ください。

ホームページもかわります。大学の広報担当の先生方と意見交換して、お互いの情報を早く流せるようにとしてきました。大学の移転情報、国家試験情報、トップページからすぐに入ることができます。またフェースブックも登場。興味のある方は参加してください。

本学第2学年 直井友紀さんが「第5回 IBAF 女子野球ワールドカップ」で史上初の3連覇に貢献！（大学HPから転載）

カナダ・エドモントンで開催された「第5回 IBAF 女子野球ワールドカップ」（8月10日～19日）に本学第2学年 直井 友紀（なおい ゆき）さんが参加し、史上初の3連覇に貢献しました。

女子野球ワールドカップは、2004年から2年毎に開催されており、今回はカナダ・日本・米国・オーストラリア・台湾・キューバ・ベネズエラ・オランダの8カ国が参加しました。

直井さんは、代表選手20名に、外野手部門として選出され、10試合のうち6試合に出場し10打数4安打、2打点で、打率.400の好成績で、守備では捕手として2試合を守り抜きました。

日頃は、千葉キャンパスで勉学に勤しみながら、埼玉県に拠点を置く「侍」という女子硬式野球チームで練習をしています。

7月24日、水道橋校舎の学長室で、井出吉信学長に約束した通り、見事、優勝、そして、3連覇を成し遂げました。

第44回歯学体速報 総合第4位に輝く！（大学HPから転載）

去る7月29日（日）より、九州地方を中心に全国各地で熱戦が繰り広げられた「第44回全日本歯科学学生総合体育大会」が8月13日（月）に閉幕しました。

今年は、ロンドンオリンピックでの日本選手団の活躍と同様、学生諸君の健闘により多くの種目が入賞を果たし、全国歯科大学歯学部29校中、総合第4位（114.50点）に輝きました。

なお、入賞部門の結果は次のとおりです。

優勝（硬式庭球部・水泳部）

準優勝（硬式野球部）

第3位（ボウリング部・少林寺拳法部）

第4位（サッカー部・陸上競技部）

第5位（バレーボール部・剣道部）

第6位（スキー部・弓道部）

第7位（ゴルフ部）

ご支援をいただいた支部・会員の皆様に感謝いたします。

※優勝：日本大学歯学部（170.00点） 準優勝：日本大学松戸歯学部（147.91点）

第3位：愛知学院大学歯学部（147.00点）

（情報ネット推進会議発）



会務検討特別委員会から
答申書の提出 24. 8. 20



北海道地域支部連合会
支部長会①



北海道地域支部連合会
支部長会②



北海道地域支部連合会
支部長会③



北海道地域支部連合会
総会①



北海道地域支部連合会
総会②



3連覇直後の集合写真
(日本女子野球協会HPより)



総合優勝した硬式テニス部
(大学HPより)



総合優勝した水泳部①



総合優勝した水泳部②



総合優勝した水泳部③